

令和7年度第2回 広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会 会議要旨

1 開催日時 令和7年8月8日（金）19時～20時30分

2 開催場所 広島市役所本庁舎14階 第7会議室

3 出席者

(1) 委員

秋山委員長、板本委員、黒瀬委員、藤本委員、山本委員

(2) 事務局

保健医療担当局長、市立病院担当部長、市立病院担当課長

4 議 事

(1) 地方独立行政法人広島市立病院機構の令和6年度業務実績及び第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に係る評価案について

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

一般 0名

報道関係 0社

7 会議資料

資料1 令和6年度の業務実績に係る小項目評価（案）

資料2 令和6年度地方独立行政法人広島市立病院機構の業務実績に係る評価結果（案）

資料3 第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に係る評価（案）

資料4 地方独立行政法人広島市立病院機構の第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に係る評価結果（案）

8 会議要旨

(1) 令和6年度業務実績に関する評価について

ア 令和6年度業務実績に関する市評価案の説明

・事務局（市立病院担当課長）が、**資料1**、**資料2**により説明。

イ 質疑・意見交換

[秋山委員長]

・資料2のP3の意見として、「適正な在院日数や病床管理による入院収入の増に取り組むなど、収入確保に努め、経営の安定を図ること」としているが、全国の自治体や病院が、診療報酬の改定等を国に要望する状況で、多くの病院が赤字となっており、厳しい意

見のような気がする。

〔事務局（保健医療担当局長）〕

- ・ P 2 の全体評価の評価コメントでも記載しているが、物価高騰と診療報酬の問題は、個別の医療機関では対応できない部分があると考えており、これについては、国が何らかの措置をすることを見据え、市立病院機構として対応できる部分をしっかり頑張って、少しでも収入確保等で安定化に向けた努力をしていただきたい、という趣旨である。

〔板本委員〕

- ・ 「第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」の「4 意欲的には働くことのできる、働きやすい職場環境づくり」の評価を2とした理由は何か。

〔事務局（市立病院担当課長）〕

- ・ 「(3) ワーク・ライフ・バランスの推進」の「ウ 年次有給休暇の取得促進」について、一部の医師で年次有給休暇の取得義務日数が未達成となったことから評価を2としており、「(4) メンタルヘルス対策の実施」が、パワーハラスメントによる懲戒処分事案が1件発生したことから評価を2としたことから、大項目評価が2としているものである。

〔板本委員〕

- ・ 年次有給休暇の取得義務日数が未達成となった医師はどの程度いたか。

〔事務局（市立病院担当部長）〕

- ・ 40人程度である。

〔板本委員〕

- ・ 災害医療について、令和5年度は能登半島地震に職員を派遣したから評価が4で、令和6年度は派遣するような災害がなかったから3というのはおかしいのではないかと。訓練や研修への参加人数などの評価が必要なのではないかと思うが、訓練などはやっているのか。

〔事務局（保健医療担当局長）〕

- ・ 基本的には、災害への備えをしっかりとやっているかという観点で評価すべきと考えている。訓練は行っているが、特別に力を入れてやっているというような説明は聞いていないので、3と評価している。

〔板本委員〕

- ・ 南海トラフ地震が発生し、市街地が浸水すれば、現在の基幹病院では、安佐市民病院以外は浸水するのではないかと思う。安佐市民病院では、特に訓練をしっかりしておいてほしい。

[藤本委員]

- ・ 「第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置」の「3 患者の視点に立った医療の提供」の「(1) 病院情報・医療情報の発信」について、4と評価した理由が、安佐市民病院においてSNSのフォロー数が増えていることとなっているが、とりあえず登録した人が増えたのか、情報発信の内容を充実させて登録者が増えたのかで、評価が違ってくると思うがどうか。

[事務局（市立病院担当課長）]

- ・ SNSのフォローとの因果関係ははっきりしないが、安佐市民病院の紹介患者が増加しており、特に、安佐南区の若い世代の患者が増えていることから、安佐市民病院においては、一定の効果はあったと考えており、それを踏まえて評価したものである。

[板本委員]

- ・ 安佐市民病院のInstagramは、県立広島病院の職員も多くフォローしており、安佐市民病院に見学に行くなど、情報発信の参考にしている。患者の増加への効果もあるかもしれないが、研修医や職員を呼び込むのに非常に効果があると思う。発信内容のセンスが良く、一度見たらフォローしようという感じがする。

[事務局（保健医療担当局長）]

- ・ 患者向けの教室や医療従事者向けの研修など、安佐市民病院の様々な活動が発信されており、医療従事者の確保にもつながるよう取り組んでいると聞いている。

[黒瀬委員]

- ・ 「第2 業務運営の改善及び効率化」の「4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり」について、時間外勤務の削減など市立病院機構において努力している部分もあるが、令和5、6年度の評価が2となっており、今後、更なる取組を求めるような評価コメントがいるのではないかと思うがどうか。

[事務局（市立病院担当課長）]

- ・ 資料2のP3の「業務運営等に関する改善事項等について」の意見の2点目において、「病床利用率の向上などの年度計画を順調に実施できていない項目については、引き続き改善に向けて取り組むこと」として、総括して意見を付している。

[山本委員]

- ・ 資料1のP3の第3の「経営の安定化の推進」の「(4) 収入の確保」において、病床利用率が年度計画を下回ったとあるが、近年の病床利用率はどのように推移しているか。

[事務局（保健医療担当局長）]

- ・ 資料2のP116に、令和2年度以降の病床利用率を記載している。

[山本委員]

- ・ 年度計画の目標が高いので、実績が追いついていないということか。

[事務局（保健医療担当局長）]

- ・ コロナ禍前の実績を参考に中期計画を作成しているため、コロナ禍前後で比べると、患者数が戻っていない状況があり、目標が達成できていないと聞いている。

[山本委員]

- ・ 資料2のP2の全体評価の評価コメントにおいて、病床利用率の向上により収支改善を図る必要があるとしているが、病床利用率を向上させるよう、もう少し詳しく記載してはどうか。

[事務局（保健医療担当局長）]

- ・ 市立病院機構において、収入の確保のために、在院日数の短縮を図っているが、予定入院が減少しており、新規患者の確保が課題であると聞いている。
- ・ ただ、病床利用率を上げていかないと収入の確保につながらないため、病床管理等により、市立病院機構が工夫するしかないと考えている。
- ・ 病床利用率が上がらないのであれば、病床数が適正なのか、市立病院機構において検討することになると思う。

[板本委員]

- ・ 事務局から説明があったように、コロナ禍で患者の受診動向が一変し入院患者の確保が難しくなったことや、在院日数が短くなっていることにより、これまで右肩上がりだった病床利用率が延びなくなってきた状況があり、令和6年度実績は十分高い病床利用率であると感じている。
- ・ 在院日数の短縮により、入院単価は上がるので収入自体は増えているのではないか。

[事務局（保健医療担当局長）]

- ・ 収入は増えている。

[板本委員]

- ・ 人件費や材料費等で、収入以上に支出が増えたということだと思う。また、病院においては、消費税の負担が大きい。

[黒瀬委員]

- ・ 第1回評価委員会の資料を見ると、令和6年度の新規入院患者数が4病院全てで増加しており、平均在院日数は減少傾向となっている。
- ・ 資料2のP3の意見において、「適正な在院日数や病床管理による入院収入の増に取り組む」となっており、全体を総括するところいう表現にならざるを得ないとは思いますが、現場にとっては厳しいのではないかと感じる。

「事務局（市立病院担当部長）」

- ・ 平均在院日数について、可能な部分で短縮を図るとともに、病床管理について、診療科ごとの病床を柔軟に運用するなどの工夫について検討いただきたいという意図である。

〔板本委員〕

- ・ 退院を午前とし、入院を午後とするなど、病床管理の工夫をしていかないと、病床利用率はある程度から上がらない。

〔事務局（保健医療担当局長）〕

- ・ 物価高と人件費上昇により、どうしても赤字となってしまうような厳しい経営環境となっているが、その中でもできる工夫はしていただきたいという意図で記載している。

〔藤本委員〕

- ・ 市立病院機構は、令和6年度は黒字予算を立てていたが、年度が始まって数か月で黒字の達成が無理だというのは分かっていたと思う。

例えば、民間企業では、外向けの目標よりも厳しい目標を内向けに示して、達成の可否を賞与等に反映させるようなことをしているが、市立病院機構においても、現実的な赤字予算を立てて、それを減らすように運営していくことの方が、努力が目に見えるので、良いのではないかと思う。

〔事務局（保健医療担当局長）〕

- ・ 市立病院機構の令和7年度の年度計画においては、令和6年度の赤字額を踏まえ、赤字予算となっており、市としては、赤字が削減されるよう努めてもらいたいと考えている。

〔板本委員〕

- ・ 舟入市民病院の病床利用率が令和6年度に上昇しており、総合診療科を新設したことで救急や紹介が増えたことや広島市民病院からの転院が増えたことなどによるものかと思うが、それ以外で何か要因はありそうか。

〔事務局（保健医療担当局長）〕

- ・ 要因として大きいのは、広島市民病院からの転院が増えたことだと思う。

(2) 第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する評価について

ア 第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する市評価案の説明

- ・ 事務局（市立病院担当課長）が、資料3、資料4により説明。

イ 質疑・意見交換

〔山本委員〕

- ・ 診療報酬について、診療所や民間病院では、日本医師会を通じて様々な要望をしているが、公立病院はどのような形で要望を行っているのか。

[板本委員]

- ・ 主に、全国自治体病院協議会を通じて要望を行っている。

[事務局（保健医療担当局長）]

- ・ 市としては、指定都市市長会等を通じて要望を行っている。